

## ゆんぬツーリズム推進協議会（与論町）



### 概要

ゆんぬツーリズム推進協議会は、平成 31 年 2 月にガイドライン方式で修学旅行の受入を行うなどの実績があるが、継続的な入込数増加には至っていない。

本年は、沖縄からの講師招聘による研修会の開催を 2 回、沖縄の現地での研修会を 1 回、そしてモニターツアー 1 回を実施した。

### 取組状況

1 月 7 日の研修では、沖縄県大宜見村の NPO 法人おおきみまるごとツーリズム協会の事務局からの話を伺った。ここでは民泊受入方法、注意点、服装は協会のポロシャツで統一する、体験は農業体験を必ず行う、料理は沖縄料理を基本とするなどの具体的な話のほか、ヒヤリ・ハットなどリスク管理やクレーム対応などの話もあり、大変参考になった。また大宜見村に赴き 7 名で農泊を体験。

2 月 15 日は、NPO 法人東村観光推進協議会から講師を招き研修会を実施。東村の受入れ家庭数は 4 6 軒、また大人も受入れている。HP を充実させていること、体験料は事務局経費を見込んで設定し、その代わりに、NPO がワンストップ窓口になっていること、そのため、金銭の授受、キャンセル対応、クレーム対応は事務局で管理し、受入家庭はおもてなしに集中できる体制であることなどの事例が紹介された。

2 月 22 日から 2 月 24 日にかけて実施したモニターツアーでは、3 人家族 2 組（関東から参加）を受入れ、地域の魅力を紹介した。

### 今後の展望

本年度の事業を通じて、こまめな情報発信が集客につながり、また宣伝と実際の受入の際のギャップを埋め、結果的に来訪者の満足度を高められることを学んだ。第一は常時受け入れ可能な家庭数の増加を図ることなど、気運の醸成が大切ではあるが、HP の整備、情報誌への掲載など、情報発信にも力をいれたい。

また与論への入込客は航空運賃が安価であるなどの理由から 7 割が沖縄を経由している。この沖縄からの誘客の方法を探っていくのも課題である。

### ここがキラリ☆ 与論町の取組

修学旅行受入れにしても、一般観光客来訪にしても、圧倒的数を誇る沖縄本島。沖縄本島からフェリーで渡れるという地理的条件を最大限に生かし、よい関係性を築いていこうという取組が光ります。